

ECO-Life Report WINTER 2025

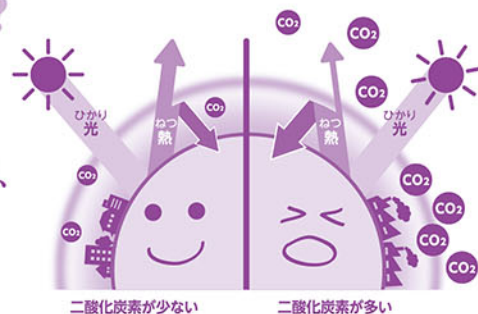


地球温暖化とは? What is Global Warming?

私たち人間は石油や石炭、天然ガスなどの**化石燃料**を大量に消費し、温室効果ガスのひとつであるCO₂を大量に大気中に放出しています。

温室効果ガスには、地表から放射される熱を吸収・放出するはたらきがありますが、これが増えすぎると、宇宙へと放出されるはずの熱が大気中に留まってしまう、地球全体の気温が上昇していきます。これを**地球温暖化**と言います。

このままでは、2100年までに札幌の気温が4.8℃上昇すると予測されています。



地球温暖化と気候変動 Global Warming and Climate Change

地球温暖化が進むと、地球全体の気候も大きく変化し、様々な影響を及ぼします。これを**気候変動**と言います。

既に世界各地では、自然環境や人々の暮らしに、その様々な影響や被害が出てきています。今年の日本の夏は、観測史上最も暑い夏となり、札幌市では熱中症による救急搬送件数が過去最多となりました。今後も、気温変動の影響で、大雨や高温など極端な現象の発生頻度と強度が増加していくと予測されています。

水不足が深刻に

干ばつなどの異常気象による水不足や、水をめぐる紛争が起こっています。



農作物の収穫量が減る

米や野菜が今までどおりに育たなくなり、農作物の収穫量が減っている地域があります。



自然災害が増える

台風・洪水・干ばつなどの異常気象による自然災害が増えています。



多くの生き物が絶滅の危機に

気候の変化に適応できずに、多くの動物や植物の絶滅が進んでいます。



未来のためにこの冬、ライフスタイルをアップデートしよう

地球温暖化の影響を最小限に抑えるためには、化石燃料の使用を減らし、CO₂などの温室効果ガスの排出を減らすことが不可欠です。

では、どうしたらいいのでしょうか?

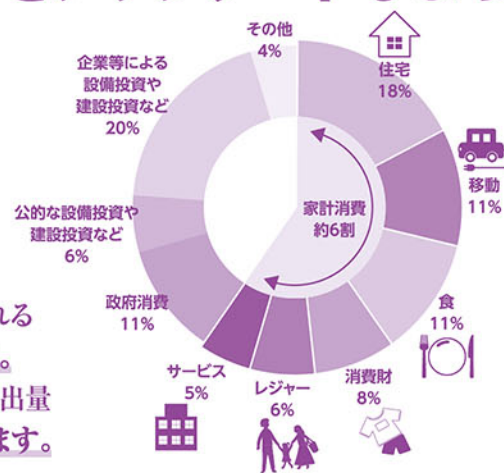
「話が大き過ぎて何だか実感がわかない。」

「自分一人ではどうしようもない。」

そう感じるかもしれません。

しかし実は、日本で消費される製品や利用されるサービスによって排出されるCO₂の約6割は、**衣食住を中心とする私たちの日常生活に起因しています。**

だから、一人一人の行動や選択は小さくても、皆で積み重ねることで、CO₂の排出量削減に大きな効果を生むことができるはずです。**できることはすぐ近くにあります。**



出展「資料：国立環境研究所及び地球環境戦略研究機関 (IGES) にて推計」

この冬取り組む7つの行動

取り組む行動に☑をつけましょう。新学期になったら、Chromebookに入力しましょう。



1. Water

水道やシャワーの水を出しっぱなしにしない

水を使用すると、浄水場、水再生プラザ（下水処理場）、そして家にある水回りの電気製品など、様々な場所で電気が使われます。節水することで発電に伴うCO₂排出量の削減につながります。

年間のCO₂削減量※

11kg-CO₂ / 世帯
水使用量を約2割削減した場合



2. Best before

賞味期限の近い食材を買う

賞味期限の近い食品を購入して食べること、お店などで廃棄される食品の量が減ります。食品ロスを削減することは、ごみを燃やすときや運ぶときのCO₂排出量の削減につながります。

年間のCO₂削減量※

2.2kg-CO₂ / 人
スーパーなどでの食品ロスがゼロになった場合



3. Fashion

今持っている服を長く大切に着よう

日本では手放した服の70%近くがリサイクルやリユースされずに処分されています。服を長く着ることで、廃棄量が減り、CO₂排出量の削減につながります。この他にも、無駄な服を買わないことも重要です。

年間のCO₂削減量※

194kg-CO₂ / 人
衣類の購入量を1/4程度にした場合



4. Transport

徒歩・自転車・公共交通機関を利用する

バスや鉄道などは、自家用車と比べ、一人当たりのCO₂排出量が少ない移動手段です。また、徒歩や自転車は移動に伴うCO₂の排出がありません。これらの移動手段を積極的に利用することが、CO₂排出量の削減につながります。

年間のCO₂削減量※

410kg-CO₂ / 人
自動車移動（通学以外）がバス・電車・自転車に変わった場合



5. Food

旬の食材、地元の食材を食べよう

日本では食材の約60%を輸入食品で賄っており、その分食材の輸送によって排出されるCO₂が大きくなっています。食品を購入する際に、国産の物や旬の物を意識して選択することが、CO₂排出量の削減につながります。

年間のCO₂削減量※

44kg-CO₂ / 人
一部の食材を旬の食材とし、地産地消した場合



6. Electricity

暖房の温度を上げ過ぎない

積雪寒冷地に位置する札幌市では、冬季の暖房の燃料として多くの灯油が使われており、CO₂排出量に大きな影響を与えています。暖房の設定温度を下げたり、使用時間を短くしたりすることで、CO₂排出量の削減につながります。

年間のCO₂削減量※

89kg-CO₂ / 世帯
FF式灯油ストーブの設定温度を2℃低くした場合

※CO₂削減量は、環境省ホームページ「ゼロカーボンアクション30」、「デコ活データベース」、「温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度」及び経済産業省北海道経済産業局「実践！おうちで省エネ」を参照



7. 独自の取り組みを書きましょう。

最新！さっぽろエコライフTOPICS

道内初の大規模商用水素ステーション

今年4月、札幌市に道内初となる大規模な定置式水素ステーションがオープンしました。水素を燃料に走る一般車に加え、バスやトラックなど大型商用車への水素補給が可能な施設となっています。今後は、隣接施設への水素のパイプライン供給など、利用の拡大が期待されています！



ごみを燃やす時の熱を電気に！

札幌市では2024年4月より市内3つの清掃工場で発電された電力の余剰分を地下鉄に供給することで、地下鉄で消費する電力のゼロカーボン化を実施しています。そして、2025年4月には、新しく建て替えた駒岡清掃工場の発電能力がこれまでの3倍になり、地下鉄で消費する電力の100%がゼロカーボン化される見込みです！



新駒岡清掃工場の
WEBサイトはこちら
見学も受け付けています！